

第1回まち・ひと・しごと創生推進会議（議事要旨）

- 1 日時 平成29年5月31日（水）午後1時30分～午後3時30分
- 2 場所 上天草市役所松島庁舎 2階会議室
- 3 出席者 別紙のとおり
- 4 議事次第 議事次第

- (1) 開会
- (2) 委嘱状交付
- (3) 市長挨拶
- (4) 座長挨拶
- (5) 議事

5 配布資料

- 資料1 上天草市まち・ひと・しごと創生推進会議設置要綱
- 資料2 会議の公開について
- 資料3 上天草市まち・ひと・しごと創生総合戦略（概要版）
- 資料4 上天草市人口ビジョン（概要版）
- 資料5 今後の会議スケジュール

6 議事

- ①まち・ひと・しごと創生総合戦略に掲げるKPIの検証
- ②地方創生交付金事業のKPI検証

以下、議事の要約

※発言者は次のとおり表記する。

担当課：各事業担当部署、金融：金融機関代表、教育：学校代表、産業：事業者代表
上記以外を「構成員」とする。

7 議事概要

- (1) 開会

事務局から、平成29年度の第1回会議開会を宣言。

- (2) 委嘱状交付

- (3) 市長挨拶

今回の会議は総合戦略に掲げるKPIの検証、及び昨年度、実施した地方創生加速化交付金と推進交付金を活用した5事業の検証を行っていただき、各事業の必要性や見直しなど、様々な意見に期待する。

また、まちづくりに参加することに大きな意義があるため、今後は可能な限り上天草高校生にも参加してもらいたい。

地方創生交付金を活用した事業を目に見えるような形に残すこともこの会議の役目であるため、積極的な意見をいただきたい。

- (4) 座長挨拶

最初の年は会議よりワークショップを進めてきた。3年目となる今年度は会議に高校生も参加してもらいたい。

上天草市全体が学校・フィールドとなって、世代を超えた学びの場を作っていけたらと考えている。

- (5) 議事

- ①まち・ひと・しごと創生総合戦略KPIの検証

②地方創生加速化交付金事業のKPI検証

③地方創生推進交付金事業のKPI検証 ①～③の要約は別紙のとおり。

座長：別添様式3の説明。

事務局：上天草市まち・ひと・しごと総合戦略KPI検証 【別添 様式1読み上げ】

座長：KPIの結果について行政から気になる点や改善点等あるか。

事務局：特に気になるのは「観光産業を担う経営者等の育成並びに組織化」の部分（①の2項目）で、観光ガイドの会登録者数が27年度28年度ともに下がった点。また、「住み良いまちづくりの推進」において「安心して生活できていると感じる市民（60歳以上）の割合」がそもそも達成・未達成の理由がよくわからない点。この市民意識調査自体、市民の方がどう感じているのかを調査する程度であるため、このKPIについては見直す必要がある。

座長：昨年と今年ともに結果が下がっているものについては事業のやり方やKPIを見直す必要がある。

「観光産業を担う経営者等の育成並びに組織化」のガイドとは何のガイドなのかお聞きしたい。観光ガイド以外の漁業や農業も十分ガイドになるのではないか。苦労している点や悩み事があれば教えていただきたい。

担当課：年々減少している原因は観光ガイドの方々の高齢化によるもの。トレッキングや魚釣り、自転車等の様々なガイドを作ろうというアイデアはあったが、実践には至っていない。違う方向からガイドの数を伸ばすなど活動を充実させる方法を課内で協議したい。

座長：地元企業が上天草高校生に企業説明会をされた時、どんな反応だったのか教えていただきたい。

教育：上天草市内の企業説明会があると聞き、進学・就職問わず高校3年生及び2年生で参加した。積極的にいろんなブースを回り、生徒にとっては上天草市内の企業についての理解につながったのではないと思う。

座長：将来、上天草市に帰ってくるという思いで高校生が企業説明を聞くことにより、地元就職に繋がる可能性がある。「観光ガイドの会」の登録者数だけでなく、ガイドをどう捉えるのか考えていただきたい。ガイドの高齢化という課題は、高校生に就業体験ほしてもらうほか、様々な産業のガイド育成などを含め見直していただきたい。また、市民意識調査の結果をKPIに設定することは難しい。この意識調査は生活に不安を抱える人は声をあげ、不安でなければ発信しないため、なかなか数字に表れにくい。

金融：資料にある新規起業家数ゼロという部分について。昨年、天草で商売は出来ないだろうかと相談を受け、その後、無事に起業することとなったが、その数字は反映されていないのか。

担当課：行政への問い合わせがあって支援した実績はない。創業支援で商工会が把握している起業件数は聞いているが、行政として手助けした部分ではないため数字を挙げていない。

座長：これについては実数を挙げた方が良いのではないか。

担当課：商工会と連携をとっており、商工会が把握している起業は5社あると聞いている。

座長：会議中の資料としては、オープンにすると良いと思うが、県などに報告する時に問題があるのか。

事務局：KPIを示す際、不確かな情報ではいけないため、行政が確実に把握できるデータを設定している。この総合戦略の報告については国へ提出するため、不確かな数値を設定することはできないが、この会議の場では、把握している数値を括弧書きで〇件と表記することでよいと考える。

座長：次回以降は、なるべく実数を載せるようお願いしたい。最終的に国への報告時に正確な数字を出していただきたい。他にはないか。

金融：コミュニティビジネスが存在している場合もあるが、新規起業家とはどれくらいの規模なのか。店舗があるものだけでなく、家の中でビジネスが成り立つものもあるため、それを含めるとKPIに近い数字が出てくるのではないか。

座長：KPIで挙げている起業の条件というものはあるのか。有限会社であっても株式会社であっても構わな

いか。

事務局：コミュニティビジネスも起業に含む。どんなに小規模でも起業とみなす。ただ、K P I の指標としては『行政が支援をして事業を始めた場合』を対象としている。

座長：どのような場合に“1”とカウントされるのか。事業登録をすればカウントするのか。

担当課：そのように考えるが、起業推進という部分については、雇用の有無が肝心な部分だと考えている。

座長：それは正規雇用かアルバイトか。

担当課：正規雇用。正規雇用3人から行政支援を行っている。

座長：新規起業数についてカウントの仕方や力の入れ方は検討して取り組んでもらいたい。「集客力を高める受入環境整備の促進」における「①宿泊施設の多言語化整備件数」の部分について、多言語で案内できるようになるのは素晴らしいが、実際に外国人観光客が増えているのか伺いたい。

担当課：観光客について27年度は順調に増えているが、28年度は熊本地震の関係で減少した。本市において、土・日・祝日は国内のお客様で満室になる旅館が多いが、冬の閑散期や平日など、空室を有効活用するという点について、外国の方を招き入れることはとても有効である。

座長：多言語化サイン設置と外国語対応スタッフを配置したことで、実際お客様が増えたか。

担当課：お客様が増えているのかは今のところ不明だが、外国のお客様は、特にSNSで情報を広める傾向が強いため、「ここは行きやすい！」という情報が広まれば、また来ていただけると思う。

座長：検証を実施してほしい。そのことで、行政がやったことをプラスに評価ができる。実際にSNSやアンケートで回答を取っておくとその関係性がはっきりすると思う。

担当課：現在、外国のお客様向けの整備が済んでいる旅館と済んでいない旅館があるため、整備した旅館で実際どれだけの外国人観光客が増えたのか調べる必要がある。

座長：天草市や苓北町との連携を活用し、本格的に検証することはいかがか。南蛮文化は基督教の文化だけでなく、いかに地域の人たちの暮らしと融合したかということ。以前、ポルトガルの研究者と話す機会があり、天草は長崎に比べると研究者の受入れが少ないと聞いた。学会の誘致はインバウンドの数にも含められるため、大学との連携を併せて考えていただきたい。

構成員：インバウンドについて発言があったが、八代港へのクルージングを天草の方に持ってこれないか。そうすることで、インバウンドの数も増え、地元の方の対応がとても良ければ、評判にもつながると思う。

座長：なにかアイデアや意見はないか。

構成員：八代港は熊本県としても誘致に力を入れており、今後も寄港数は増えていく見込み。クルーズ船はいかに地元でお金を使ってもらうかが1つの課題。基本的なルートは熊本城から阿蘇に行き、免税店でショッピングだったが、地震により、熊本市及び阿蘇市へのアクセスが非常に難しくなったことで、少し分散化し、人吉市や水俣市にお客様が足を運んでいるという状況。モノの消費からコトの消費となってきている。クルージングのお客様をターゲットにするのであれば、中国人に対する抵抗感やメンタルの部分を解消する必要があること、また、バス30台ほどで移動するため、駐車場などの確保が課題である。魚市場は外国人にとっても人気があるため、上天草は海が近く、そういう強みをもともと持っているため活かしていくとよいと思う。

座長：バス30数台の中から1組だけとか、小さなロットで獲得することはできないか。

構成員：客層は比較的最近、所得が上がった中間層が多いが、その中でも一定数ラグジュアリークラスの富裕層もいる。八代港からフェリーで天草のイルカウォッチングに行くなど、その一部をターゲットにするのもありかと思う。

座長：ビジネスチャンスとしてもクルーズ船を天草に引っ張るのもよい考えである。

【休憩】

担当課：（訂正）先述の新規起業家について。商工会で把握している数値について、27年度9件、28年度3件、と規模は小さいが、起業家はあった。

座長：産業政策課からの訂正を受け、商工会があげている数値は、「0」ではないということがわかった。今後も新しい企業等コミュニティビジネスも含め、天草の産業が元気になることに期待。引き続き、議事②地方創生加速化交付金事業のKPI検証について事務局から報告を求める。

事務局：地方創生加速化交付金「上天草で生きたくなる！バックアップ大作戦事業」の結果報告。

座長：事業担当課から補足等ないか。

担当課：昨年度は資料のとおり、様々な取組みを行った。主に認知度向上を目的とし、シティプロモーション動画を作成、様々な媒体を通じて拡散したことで認知度向上に繋がったと思われる。移住定住については、昨年度から移住支援制度を4種類新設した。①新規で住宅を購入された方に対する助成制度、②引越しのに係る費用の助成制度、③車に対する購入の助成制度、④免許を取得する際の助成制度、徐々に認知度が向上し、相談や移住者に繋がったケースも増えているところ。併せて、空き家の問い合わせについて、対応するため移住者向けの空き家バンク制度を昨年度から創設。このことについては、認知度の向上が課題であるが、まずは利活用していない空き家を掘り起こすべく、今年度、固定資産税課税対象者にチラシを配布するなど取組みを始めたことから、様々な問い合わせがあり、新規の申請に繋がっているところ。今後については、空き家を提供する際の片付けの手伝いをするなど、制度の周知を行き届かせる必要があるため、様々なツールを使い周知し、移住促進に取り組む。

座長：シティプロモーションについて、ロバートの秋山氏を起用したPVは学生にも浸透しており、知名度向上について効果があったと思われる。移住定住に関しては、先輩移住者が新規移住者と関わりを持ち、手厚くケアしていることは心強く感じるのではないか。また、4つの助成制度について、住宅と引っ越しと車と免許は田舎暮らしをする上で大事なこと。今後のためにも記録を残し、他市の移住政策とはここが違うとアピールポイントとして十分魅力的。しかしながら、次の手段を考える必要がある。移住定住も一時期のブームから減少傾向であり、空き家と組み合わせることも限界が近づいている。今後は、移住者と企業が連携するなど、次の一手を考えるべき。次の事業について事務局から説明を求める。

事務局：「島旅サイクリング事業」の報告

座長：事業担当課から補足等ないか。

担当課：事務局の説明にもあったが、天草地域全体の入込客は減少している。上天草市は伸びているが、島旅サイクリングは上天草だけでできることでないため、天草地域全体の入込客をみたところで評価は「B」とした。サイクリングマップは大変好評であったが、完成が年度終り頃であり、効果が出るのは今年度かと思われる。29年度の実践として、県外や、海外の方にも取組みを活かし、チャレンジしたい。サイクリストという限られた対象には非常に好評だが、今後、一般の方に展開させるためにはどうするかが課題。

座長：コアなファンを獲得することは、観光やツーリズムには重要である。上天草市だけでなく、天草地域全体で取り組むところが素晴らしい。苓北町や天草市と一緒に実施することが、先述の南蛮文化と繋がる。車で上天草市を通過するのではなく、自転車で休みながら上天草市の空気を感じることが大事。ロングライドのコースを充実させるとより良い。崎津にもコースが通っているが、地元に対する恩恵がよくわかっていただけていないため、サイクリストと地元の接点ができるような仕掛けを作るとどうか。マップも良いが、宿泊する方が本来は良い。上天草市においては、サイクリストの方々がコースやその土地のファンになることは非常に良い。地域に落ちるお金は少ないが、ファンになると何度も来てもらえるため、聖地化することによって価値が高まると考える。極端な話だが、上天草市の職員が全員自転車

で通勤してるなど、ロバート秋山氏のPVと絡むことで話題にもなる。佐賀県においては、タイに絞って誘致している。そのことからタイ国内では、日本で行きたい場所として「佐賀」が一番にでてくる。ここまで極端にターゲットを絞ったアピールの仕方もある。台湾も交流する地域としては良い。親日であり、文化も近く、アニメや文化的なアートなどが栄えている。このことについて、各構成員から提案等あるか。

構成員：上天草市は韓国語標記の整備も進めているため、韓国人をターゲットとすることについては良いと思われる。昨年、娘の友人で韓国人の子が遊びに来た際、何をしたいか尋ねると「とにかく寿司が食べたい。」とのことで、すぐ上天草市に連れて来た。韓国も海に囲まれているが、日本のお寿司が食べたいとのこと。観光についても先述のとおり、「モノ消費からコト消費」に変化している。自転車で上天草市の空気を感じる体験は強く心の中に蓄積されていく。今後は、東アジアで連帯感や一体感を持たなければならない。

座長：ロングライドの人たちだけでなく、富裕層にも似合うような施設を用意することで、様々な層がそれぞれの楽しみ方をできるのが、上天草の良いところだと思う。シーカヤックと他のレジャーとの組み合わせや、様々なバリエーションを持って天草地域全体で盛り上げていくことも大事。以前議論した際に「無人島に泊まろう！」というアイデアが出たが、自転車との相性がいいと思われる。車ではできないことを重きに考えると良い。次の事業について事務局から説明を求める。

事務局：上天草パライゾ“アプリダス”事業の説明

座長：事業担当課から何か補足等あるか。

担当課：27年度からの取組みとして、ブラッシュアップ事業で商品の磨き上げを、市内5つの事業所に取り組んでもらっているところ。29年度からは新たに公募・提案を受けつけ、新たな事業者の掘り起こしに努めている。実際、27年度から取組みを開始した事業者においては、29年度から販売実績を残すような仕組み作りには行政の支援とバックアップを考えているところ。また、ブラッシュアップだけでなく、スキルアップ研修も行っている。昨年度の実績としては、スキルアップ研修で、4面名刺を使い、「うち是这样な企業なんだ」、「どんどん取り扱ってください」という、名刺を作っていただき、自分の店舗・事業所を売り出す取組み、意識づくりをさせている。事務局からもあったように、29年度については販促も含め、実績を積んでいくよう、注力していく。

構成員：事業者として27年度からスキルアップ研修に参加した。自分の店の手書きでのチラシ作りから始まり、ただ商品売るだけでなく、自分たちのセールスポイントを把握し、製品作りに取り組んだ。28年度は名刺とブラッシュアップ事業により、東京での販売や、小学館などの雑誌編集社や、個人では訪問できないようなところに営業ができ、大変勉強になった。また、今年度は新しく販路開拓について努力したい。

座長：6次産業は以前から課題。小さな成功事例を作って、広めていくことが良いことである。上天草市のやり方は希望が持てる。“アプリダス”という事業名も素晴らしい。他に意見があればお願いしたい。

構成員：観光の立場から見て、販路拡大を考えた時、「食べたいなら地元に来てよ！」と、それが併せて人の流れをつくると思われる。しかし、生産者にとって安定的な収入を得るため、考えないといけないこともあるが、戦略的な素材があっても良い。

座長：すごくいい観点。今後、協議会の中で議論していきたいと考える。ネーミングも、意外性が大事で「南国サーモン」は面白いアイデア。ぜひ部局を超えて議論をしていただきたい。

事務局：「VISITあまくさ・しまばらプロジェクト」について説明。

座長：事業担当課から補足等ないか。

担当課：DMO基盤整備事業について、昨年度に観光動向情報の収集まで実施し、上天草市内にとどまっている。29年度は天草市も実施することにより連携し、DMOの基盤整備が進むのではないかと思うところ

ろ。K P I の指標では、実績が上がっているため「A」とした。DMO整備として天草地域は進んでいない状況である。

座長：DMOの態勢決まっているか。

担当課：まだ決まっていない。

座長：広域の連携の事業であるため、先述のとおり、上天草市だけで進めるものではなく、じっくり進める必要がある。DMOはやらなければならないイメージが強いが、本当に必要なのかを含め、天草地域としての連携が大事。また、既存の観光協会等を活用するのもよいと思う。加速化交付金については以上。最後に推進交付金事業について事務局から説明を求める。

事務局：「ヘルシーアイランド事業」について説明。

座長：事業担当課から説明を求める。

担当課：複数の課が一丸となり政策として事業を挙げているものだが、市民を対象にした「上天草市で生きたくなる！」について、事業を考えたところ。本市には多くのイベントがあり、そのイベントに対して、市民も楽しく遊びながら健康づくりができる事業施策を考えた。28年度については、実施計画を整備し、実際に今年度から事業を実施する。上天草市の海の幸・山の幸を使ったヘルシーメニューの開発や、市民が健康増進を築くような施策をツーリズムとして企画し、進めていく。健康ポイントは各自治体で行われているが、楽しくイベントに参加し、ポイントをためて健康増進に努め、市民が特定検診や住民健診を受けるようなプログラムを進めていく。

座長：よく地方創生のことを読み込んでおり、単に人が来るだけではなく、地域の人が楽しんで参加できるものとなっている。特に着地型の観光（同心円状の集客）で、地元の人が良いというところに観光客が集まる。前島の観光拠点施設も、外から人が来るのも大事だが、いつも誰かいるという状況を作ることが大事。そのことから健康づくりと絡められたらと思う。今までも健康づくりの活動はあったと思うが、これまでとどう違うのか、特に地方創生と絡めて力を入れているところはどんなところか。

担当課：一番は「楽しい」というところ。新たにイベントを作り出すのではなく、既存のイベントを活用することで、市内外の人を呼び込み、それを健康に繋げていくというのがコンセプト。今までの大きな違いはそこである。

座長：市職員も参加し、健康ポイントため、「上天草市役所の職員が一番健康管理をできていて、いいじゃないか！」というのが理想。楽しむということが基本コンセプトというところが良い。最後になるが、全5事業の評価を行う。先述のとおり、基本的に担当課追従。すべて「A」でも良いと思われるが、なにか意見や質問等ないか。

金融：観光ガイドの登録者数の件について。大学の留学生に観光ガイドを要請できないか。先述のインバウンドの話とセットで考えると、ソフト面でのおもてなしができ、インバウンドに効果的なのではないか。

座長：研究生にケニアからの留学生がおり、天草の研究をしているが、そのことで地元の人たちとの交流が生まれ、歓迎されている。異文化交流という意味でもすごくありがたい。昨年、熊大の外国人だけのボランティアチームがおもてなしとして八代港に来る外国人向けにガイドブックを渡したいとのことで、英語だけでなく、中国語や他の言語で多国籍用ガイドブックを作成するといった活動を行った。大学で「COCプラス」（センターオブコミュニティプラス）という地域の大学という活動をし、地元で就業するというもので、地域に大学生が行って、大学生も学びながら、地域の人と一緒に学ぶという活動を行っている。今年の会議にも大学生を参加させる予定。中国のクルーズ船の話があったが、学生が来ていることもあれば悪いこともある。だが、同時に能力も高い。地域の活性化を推進するには大学生が来ることだけが全てではない。大学生が来ることにより、火が付くのは地元の若手と高校生だと考える。大学生と直にふれることで、高校生や中学生は飛躍的に向上心が伸びる。上天草高校にも協力していただき、高校生、大学生、若者が学べる場を設けて欲しい。最後に1点。事務局案だが、今年の地方創生は

今までと一味違う面を見せたい。「もりのともしび」さんがロゴを制作し、「上天草じぶん学舎」を立ち上げないかと提案を受けた。時期は未定だが、上天草市を舞台にみんなが学び合い、まず、「じぶん」を磨く。誰もが参加できる学び舎が上天草市というフィールドであれば望ましい。関西の一人称は「じぶん」であり、二人称も「じぶん」という。あなたとわたしが学びあうという意味も含め、じぶん学舎とする。これは働くことを考える、働くことを生み出す、働く人を繋げるということ。新しい働き方、未来の仕事場づくりを掲げてつくっていかうと思う。今後の会議では、ワークショップに、高校生や若者を参加させたい。具体的には、商店街の活性や、龍ヶ岳町の学校施設の跡地活用、湯島の魅力化などを題材としたい。事業担当部署がやるとかでなく、本委員会で盛り上げて行きたい。そこからいろいろな職種に巣立っていく。先ほど構成員からもあったが、帰ってくる人材を今育てる必要がある。地方創生交付金がある今、教育を受けさせる必要がある。この件について作成者からフォロー等あればお願いする。

構成員：最初、この会議に関わったとき、学生が市外に流出してしまうと伺い、この事業のなかで最終的な柱は、「こども」と「教育」が大事になると考えた。会を重ねるなかで、教育は子どもだけでなく、大人も学ぶことが必要であり、高齢の方であっても一緒に参加し、仕事はリタイアした後もまだ働きたいという方が先生となり、子どもに教えていく。場合によっては、子どもから大人が教えてもらうこともある。そういった横並びの組織や場を想像し、今回デザインさせていただいた。

座長：本来これは業務として発注したかったが、自発的にデザイン画を描いていただき、それを提供いただいたところ。このような一枚の絵が有るか無いかで、構成員の理解度が違う。上天草市民と上天草市役所とが一緒になって作り上げていくため、今後より良いアイデアを出していただきたい。

事務局：次回以降の流れについて報告させていただく。本日の検証結果について、明後日開催される市議会定例会で報告する。また、交付金事業のKPIについては、内閣府にも報告する。次回の会議日程は今のところまだ決まっていないが、7月中旬ごろに開催する予定。また、第2回以降の内容について、今回のKPIの検証を踏まえた個別事業など、KPIの見直しについて協議ができればと思う。今日はKPIの検証のみだったが、次回は構成員にも意見をいただきたい。

座長：閉会宣言。

【文責】企画政策課地方創生推進室：速報のため、事後修正の可能性あり。